

第8回 畠山公開シンポジウム ジャポニスムと女性

極東から運ばれてきたエキゾチックな品々に、十七世紀以降西洋の女性たちが強い関心を寄せたことはよく知られている。クロード・モネの《ラ・ジャポネーズ》を例に挙げるまでもなく、女性はジャポニスム絵画の画題として頻繁に描かれてきたし、女性が表現の主体として頭角を現し始めるのもまた十九世紀以降の特徴ともいえよう。ジャポニスムが女性によって支えられ、女性を主題とし、また女性によって生み出される諸例は、女性がジャポニスムの本質に関わるという事実を示すといえる。

本シンポジウムは、「主体」「客体」「メタファー」といった視点よりジャポニスムと女性の関係に関する研究と議論を掘り下げようとするものである。



日時:2018年10月6日(土)
10時~18時 受付9時30分
会場:拓殖大学 文京キャンパス

主催:ジャポニスム学会
共催:公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団
使用言語:日本語、英語
定員:シンポジウム150名、参加費無料

関連企画
見学会 10月5日(金)詳細は学会ホームページ参照
若手研究ワークショップ 10月7日(日)10時~14時
東京大学東洋文化研究所